

昨今、新聞などで多剤耐性菌（複数の抗菌薬が効きにくい細菌）に関する報道がされることが多くなりました。

当院では、従前よりICT(感染制御チーム)および感染防止対策委員会が中心となって病院内の感染防止対策を行っております。臨床検査科からの検査結果をモニターするなど、病院内での感染症発生状況を把握して参りましたが、2014年3月カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（多剤耐性細菌の一つ）の保菌状態にある患者さんが確認されました。該当の患者さんにはご説明の上、すみやかに個室に転室いただくなどの対応をとってまいりましたが、その後も保菌者数の増減を繰り返しているため、現在近隣の医療機関とも連携し対策にとめております。なお、この細菌によって感染症（発熱などの症状）を発症した例はございません。念のため、一部の病棟への新規入院を見合わせるなどの対策を行っております。ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

多剤耐性菌について詳しくお知りになりたい方はこちらをごらんください。

日本感染症学会 Q & A

<http://www.kansensho.or.jp/mrsa/100913publicqa.html>